

(医療機関名：滝宮総合病院)

今後の医療機関としての役割等について

議論の論点	医療機関の役割等																																									
1 病院の状況	<p>建替え等による病床機能の変化（別紙「病床再編成の経緯」参照）</p> <p>当院では、2005 年から 2025 年までに高齢者の脳卒中、心疾患の患者が 23%増加するとするデータを基に 2010 年県策定の地域医療再生計画（中讃医療圏）において、急性期からリハビリ期に移行した患者の受入等を行う後方支援病院としての機能を強化することとし、2012 年病院建替えに際し 35 床の回復期リハ病棟を新設し、さらに総病床数を 22 床削減した。2025 年中讃医療圏の推計人口は約 5.8%減少するものの、病気発症後から在宅復帰までにある程度の療養期間が必要となる 70 歳以上の高齢者は逆に増加傾向にあることから、政府が進める地域包括ケアシステムに貢献するため 2016 年迄に急性期一般病床を 111 床削減 98 床とし、43 床を回復期リハ、46 床を地域包括ケアに転換、地域住民の救急受入・手術、回復期、地域包括ケア病棟での在宅復帰支援迄の機能を担うとともに、地域医療機関、介護サービス事業所・介護施設との連携による患者受入にも注力している。</p> <p>当院としては、他の病院等との再編統合を検討する必要はなく、下記に述べる現在の医療機能を維持し、他病院との連携を強化しながら、綾川町地域に欠かせない病院として地域医療を担っていくこととしている。</p> <p style="text-align: right;">(床)</p> <table border="1" data-bbox="300 1048 1385 1585"> <thead> <tr> <th></th> <th>許可 病床数</th> <th>高度 急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建替え前 (H24 年 7 月以前)</td> <td>209</td> <td></td> <td>209</td> <td></td> <td></td> <td>(他に人間ドック 4 床あり)</td> </tr> <tr> <td>建替え後 (H24 年 8 月)</td> <td>187</td> <td></td> <td>152</td> <td>35</td> <td></td> <td>(他に人間ドック 4 床あり)</td> </tr> <tr> <td>R 元年 病床機能報告</td> <td>187</td> <td></td> <td>98</td> <td>89</td> <td></td> <td>(他に人間ドック 4 床あり)</td> </tr> <tr> <td>2025 年 予定病床数 病床機能報告</td> <td>187</td> <td></td> <td>98</td> <td>89</td> <td></td> <td>(他に人間ドック 4 床あり)</td> </tr> </tbody> </table>								許可 病床数	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	備考	建替え前 (H24 年 7 月以前)	209		209			(他に人間ドック 4 床あり)	建替え後 (H24 年 8 月)	187		152	35		(他に人間ドック 4 床あり)	R 元年 病床機能報告	187		98	89		(他に人間ドック 4 床あり)	2025 年 予定病床数 病床機能報告	187		98	89		(他に人間ドック 4 床あり)
	許可 病床数	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	備考																																				
建替え前 (H24 年 7 月以前)	209		209			(他に人間ドック 4 床あり)																																				
建替え後 (H24 年 8 月)	187		152	35		(他に人間ドック 4 床あり)																																				
R 元年 病床機能報告	187		98	89		(他に人間ドック 4 床あり)																																				
2025 年 予定病床数 病床機能報告	187		98	89		(他に人間ドック 4 床あり)																																				
2 急性期医療の実績について	<p>診療実績の状況（別紙「平成 30 年度急性期一般病床等における患者区分の実績」参照）</p> <p>当院の 2018 年度における急性期一般病床の 1 日平均患者数は、病床数 98 床（ドック 4 床除く）に対し 76.5 人、稼働率 78.1%、うち急性期治療実績（600 点以上）の患者は、68.8 人稼働率は 89.9%であり、病床機能報告で急性期病床としている一般病棟 98 床のうち 7 割を占めている。これは、がん、急性期心筋梗塞、急性期脳血管障害等の特に診療実績が少ないとされた疾患以外の急性期患者が多く利用していることを示しており、また、綾川町（人口 23,000 人）の一般病床は実質的に当院の 98 床が全てであることから、当地区には不可欠な病床となっている。</p> <p>さらに、県が行う入院患者実績調査によっても、令和元年 7 月 1 日から同 7 日までの平均で、高度急性期、急性期患者を 61.4 名/98 床受入れており、病床機能報告において、急性期病棟として報告するに十分な稼働状況を有していると考えている。</p>																																									

診療実績件数

(単位：件)

2 急性期医療の実績について

診療項目	診療実績	備考
(1) がん		(H30 実績)
肺・呼吸器	0	(0)
乳腺	0	(16)
消化器	2	(20)
泌尿器	2	(42)
放射線療法	3	(34)
(2) 心筋梗塞等の心血管疾患		
手術	2	(9)
心カテ	10	(69)
(3) 脳卒中(超急性期脳卒中加算等)	1	(12)
(4) 救急医療		
大腿骨骨折	5	(43)
救急車受入件数	75	(1,187)
ウォークインを含む時間外患者数	173	(2,274)
(5) 小児医療		
小児入院医療管理料	0	(0)
新生児集中治療室管理料	0	(0)
夜間小児救急医療件数		
(6) 周産期医療	0	(0)
分娩件数	0	(0)
ハイリスク分娩管理料	0	(0)
(7) その他急性期治療実績		
・急性肺炎	19	(245)
・脳梗塞、脳出血	16	(155)
・骨折(大腿骨・四肢)	18	(134)
・心不全、狭心症	15	(124)

<入院患者実態調査報告：計算シート より>
 ・香川県医務国保課 入院患者実態調査の実施 報告
 ※医療資源投入量＝
 患者1日当り診療報酬－入院基本料－リハビリテーション料

令和元年7月1日～7月7日

一般病棟（3F西：52床・4F東：46床） 98床 結果報告

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
12.6人	48.8人	15.7人	4.1人	81.2人

高度急性期 医療資源投入量 3,000点以上
 急性期 医療資源投入量 600点以上3,000点未満
 回復期 医療資源投入量 175点以上 600点未満
 慢性期 医療資源投入量 175点未満

3個々の病院の指定状況とその役割

① 指定状況

当院は、へき地拠点病院、二次救急医療機関として、平成30年度において救急車1,187件（平成30年度）受入れており、綾川町（人口23,000人）の一般病床は実質的に当院の98床が全てである状況で、他の医療機関で代替できない医療機能を提供していると自負している。

指定状況	平成30年度における実績
へき地拠点病院	1件（H31年度2件）
2次救急医療機関	救急車1,187件 Walkin2,716件

② 各病院の独自の取組み

○ 強度変調放射治療の実施

・強度変調放射線治療にも取組み、放射治療専門医2名体制により、平成30年度に1,884件（H30.7から）の実績があり、当院の独自の取組みとして力を入れている。

○ 予防医療の充実

・予防医療にも重点を置き、早期発見・早期治療を実現する医療体制を整備している。健診数は県下最多である。（企業、住民、組合員38,519人／年）
 ・放射線科機能としてPET診断（PET-CT：1,805件／年）と複数専門医による放射線治療（治療医2名体制による強度変調治療にも対応）2,827件／年を行っている。
 ・県内でも有数の内視鏡治療件数（5,929件／年）を実施している。

※件数は30年度実績

取組の内容	平成30年度における実績
強度変調放射線治療の実施	放射線治療専門医2名体制による実施（30年7月より） 強度変調放射線治療 1,884件（209件／月）9ヶ月
県下全域を対象とした健診事業	施設11,503件、巡回24,273件、泊ドック1,305件、 PETCTがん健診461件、肺がんCT健診977件、 計38,519件、特定保健指導199件

4 近隣の病院との機能連携・役割分担の状況

① 近隣の病院との機能連携・役割分担の状況

近隣の病院との間では、下表のとおり競合することなく、互いの医療機能を踏まえた連携等を行っている。

近接する医療機関が競合するものとして、一律に近隣の病院と診療実績を比較するような評価は、地域の医療機関間の連携の実情を無視したものと考えている。

病院名	機能連携・役割分担の状況
香川大学医学部付属病院・県立中央病院・労災病院等	<p>【後方支援機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院から高度急性期病院へ 46 件 ・高度急性期から当院（急性期病床）へ 117 件 <p>【ポストアキュート機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期病院から当院回復期・地域包括ケア病棟へ 53 件
開業医、楽々苑、岡本荘、松林荘、紅山荘等	<p>【医療介護連携・サブアキュート機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院から介護施設等へ 173 件 ・開業医、介護施設等から当院へ 647 件 <p>※件数には、入院、施設入所者のみを計上しており外来通院患者は含んでいない。</p>
労災病院、日赤、坂出市立病院、三豊総合病院他	<p>【がん診断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期病院等からの紹介による PET-CT 画像診断 1,206 件

② 転棟・転院の状況

上記の他病院、院内急性期以外の病棟及び介護施設等との連携の具体的な状況は以下のとおりである。

(単位：件、日)

転棟・転院先	件数	平均在院日数
院内急性期➡ 院内急性期以外病床	430 件	17.1 日
院内急性期➡ 院外急性期病床	58 件	13.6 日
院内急性期➡ 院外急性期以外病床	24 件	26.9 日
院内急性期➡ 院外介護施設等	92 件	19.6 日

香川県厚生農業協同組合連合会における 耐震化整備に伴う病床数、病棟機能の見直し

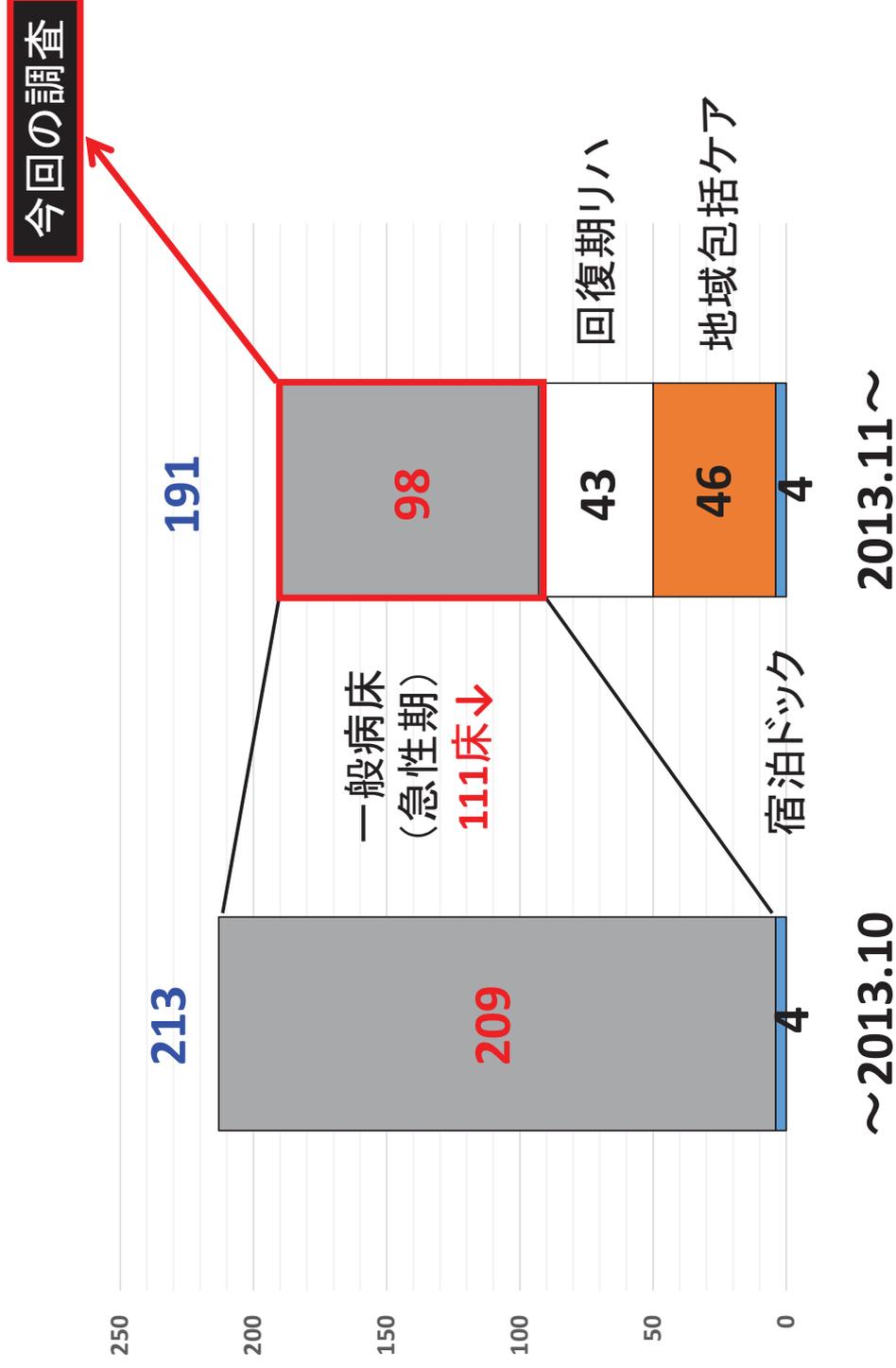
— 滝宮総合病院 —

滝宮総合病院 (191床)

2013-11 再開発



滝宮総合病院 (22床↓)



香川県厚生農業協同組合連合会における病院機能の選択

滝宮総合病院 (191床) 2013-11 再開発



病院機能 (2019年度)

98床 一般病床(7:1)

43床 回復期リハ病床(2014-1)

46床 地域包括ケア病床(2016-8)

4床 健診(宿泊ブロック)

— 施設健診・巡回健診(4台)

訪問看護ステーション



7:1

入院料1
入院料1

二次健診での
連携強化

院内との連携強化

滝宮総合病院 平成30年度 患者区分実績

病棟名	許可 病床数	稼働 or 非稼働	入院患者数（1日当たり平均）（人）				合計
			高度 急性期 3,000点以上	急性期 600点以上 3,000点未満	回復期 175点以上 600点未満	慢性期 175点未満	
3階西病棟 (一般病床)	52	稼働	6.2	25.6	7.8	2.2	41.8
4階東病棟 (一般病床)	46	稼働	8.8	24.0	3.5	0.8	37.1
3階東病棟 (回復期リハ)	43	稼働	0.0	0.0	40.8	0.0	40.8
4階西病棟 (地域包括庁)	46	稼働	0.0	0.0	39.8	0.0	39.8
合計	187		15.0	49.6	91.9	3.0	159.5

一般病棟	98	64.6 (65.9%)	14.3 (14.6%)	78.9 (80.5%)
回復期・慢性期	89	0 (0%)	80.6 (90.6%)	80.6 (90.6%)

入院患者日報(2019-11-14)

滝宮総合病院

入院患者日報

令和元年11月14日(木)

科	計 患者数	本日の入院数					計	対計画 増減	対計画 達成率
		3-西 一般	3-東 回リハ	4-東 一般	4-西 地域包括	-			
内科	52.0	52	43	46	46	-	187	11	121.2%
心療内科		2		35	26		63		
循環器科	2.5						1	▲ 2	40.0%
小児科	10.0	6		1	4		11	1	110.0%
整形外科	46.0	15	20	1	5		41	▲ 5	89.1%
脳神経外科	41.0	14	18	2			34	▲ 7	82.9%
皮膚科									
泌尿器科	5.0	5		3	1		9	4	180.0%
産婦人科	2.0			3			3	1	150.0%
眼科									
耳鼻咽喉科	1.5							▲ 2	
放射線科	2.0							▲ 2	
麻酔科									
歯科									
計	162	42	38	45	37	-	162		100.0%
稼働率		80.8%	88.4%	97.8%	80.4%	-	86.6%		
前年度実績平均						-	157.8		

内科と整形外科の割合が大きく、内科の主たる対象は総合診療内科的疾患である

地域医療への貢献度の指標として下記指標への配慮もお願いしたい

1. 一般病床の必要性の指標としての「整形外科手術」
2. 地域包括ケアシステム構築(医療介護連携)の指標としての「介護支援等連携指導料」

平成30年度臨床指標	今年度目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均	H29年度 (実績)		
手術	内科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0		
	外科	18	14	11	12	15	13	8	11	17	11	14	18	17	161	13.4	14.8	
	整形外科	18	19	20	34	21	25	28	39	28	30	19	28	19	310	25.8	21.8	
	脳神経外科	4	7	6	5	3	6	8	7	4	5	7	1	4	63	5.3	4.2	
	皮膚科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	
	泌尿器科	6	10	12	11	13	17	10	14	9	11	14	14	16	151	12.6	11.8	
	産婦人科	8	12	15	17	13	14	9	12	11	12	14	14	20	163	13.6	10.9	
	眼科	12	8	9	10	12	8	8	12	0	0	0	0	0	67	5.6	7.2	
	耳鼻咽喉科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	
	計	70	70	73	89	77	83	71	95	69	69	68	75	77	916	76.4	70.8	
	肺血栓症予防管理加算		48	45	49	43	49	34	48	39	34	47	52	57	545	45.4	44.2	
	救急	救急車受入	95	80	81	75	104	132	87	102	86	119	107	91	122	1,187	98.9	95.2
		入院時支援加算1	40.0	32	33	35	48	51	43	46	40	52	31	32	53	496	41.3	35.3
		入院時支援加算	5.0	0	1	2	3	7	1	5	7	3	4	4	5	42	3.5	-
介護支援等連携指導料		13.0	13	13	11	18	24	16	18	4	9	13	17	18	174	14.5	10.9	

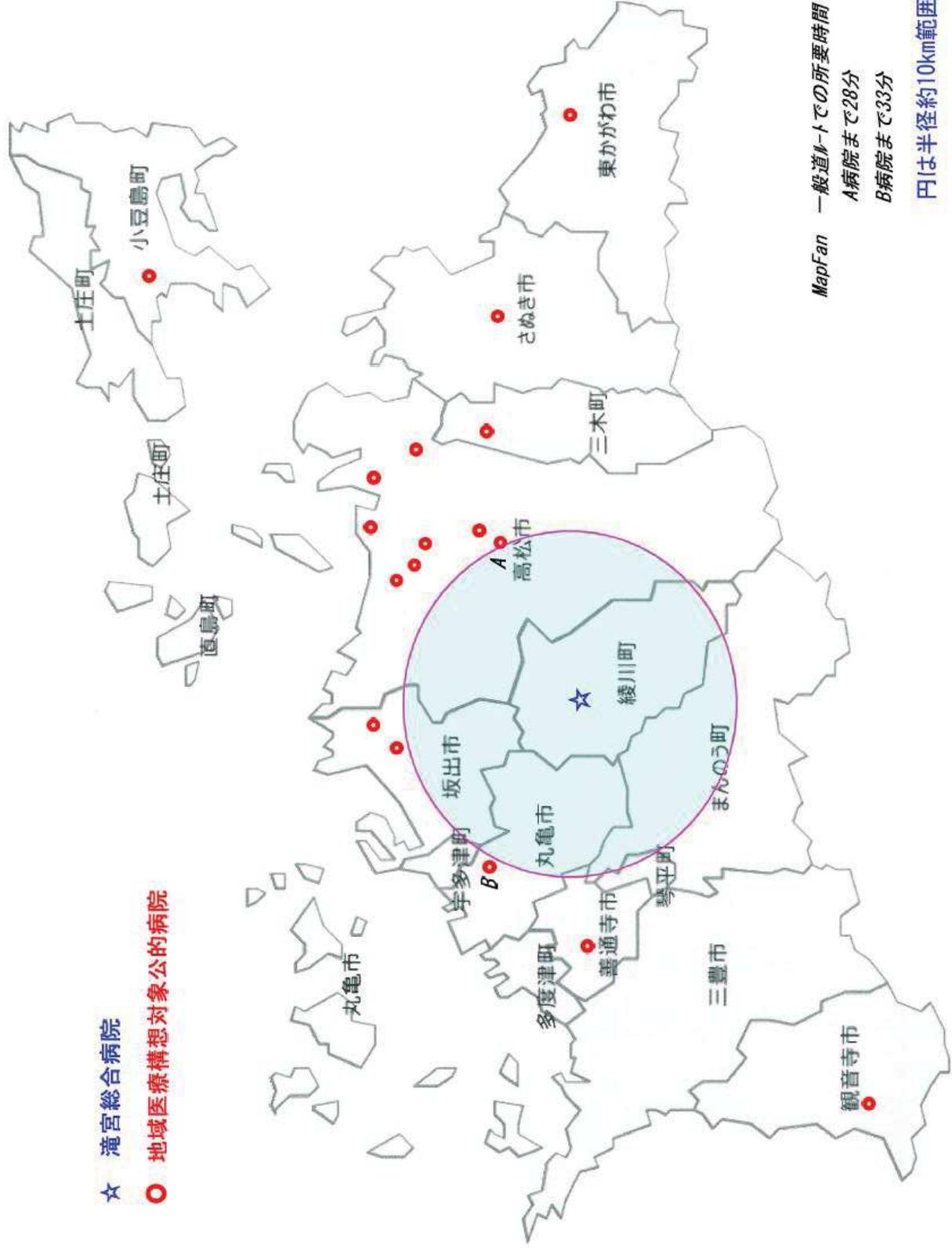
手術

救急

医療介護連携

☆ 滝宮総合病院

○ 地域医療構想対象公的病院



MapFan 一般ルートでの所要時間

A病院まで28分

B病院まで33分

円は半径約10km範囲内

滝宮総合病院：まとめ：地域包括ケアシステムの一翼を担うべく計画し、遂行している。

1. 再開発に併せて、ダウンサイジングを行った。
 - 1) 総病床数を22床削減した。
 - 2) 病院機能として一般病床を98床(再開発前は209床)に削減し、地域包括ケアシステムの一翼を担うべく回復期リハビリテーション病棟(43床)と地域包括ケア病棟(46床)を開設した。
 - 3) **一般病床98床は地域医療機関との連携、介護サービス事業所・介護施設との連携、住民の救急受診受入・手術、回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟の円滑な運用**に使用している。
2. 地域包括ケアシステムの中で滝宮総合病院の一般病床で担う対象疾患を「がん、急性期心筋梗塞、急性期脳血管障害など」の高度急性期機能を要するものではなく、高齢者が多いことに対応して「高齢者の脳血管障害、誤嚥性肺炎、高齢者の骨折、慢性心不全」などを含む広範囲にわたる総合診療的な疾患とし、2018年度の稼働率は80.1%である。入院患者は**(総合)内科・整形外科**の割合が高い。
3. 地域連携して既存の医療連携に加え、介護支援事業者・介護施設を対象に**医療介護連携会議**を開設し、連携の成果の指標としての**介護支援等連携指導料の算定**も開始した。
4. 綾川町(人口23,000人)の一般病床は実質的には滝宮総合病院の98床が全てであり、**救急車受入(99件/月)**と**手術実施(76.4件/月)**には不可欠である。手術では整形外科が多い。
5. その他の活動
 - 1) 健診者数は県下最多である(企業・住民・組合員 38,519人/年)
 - 2) 放射線科機能としてPET診断と複数専門医による放射線治療2,827件/年(治療医2名による強度変調放射線治療:1,884回/年)を行っている。
 - 3) 県内でも有数の内視鏡件数(5,929件/年)を実施している
6. 当院は**公的病院**であり、自立した運営が必須である。再開発5年後の2018年度には黒字化を達成し、今後も**継続して地域医療に貢献できる体制を整えている**。
7. 全国的にはダウンサイジング、統廃合が最適である地域があることは充分承知している。一方で当院では当院は現在の医療提供体制を継続により引き続き地域医療に貢献し、将来人口減による病床稼働率の低下に直面する際にはダウンサイジングを考慮したいと考えている。



綾歌地区
医療・介護
連携談話会

結論：中讃南部の地域包括ケアシステム構築には滝宮総合病院の一般病床は不可欠である。当面は現状の医療提供体制で、引き続き地域医療に貢献して行きたい。

滝宮総合病院 病床再編成の経緯

	急性期 一般病棟	回復期 リハビリテーション病棟	地域 包括ケア病棟	人間ドック	総病床数
平成10年4月	209床	-	-	4床	213床
平成24年8月	152床	35床	-	4床	191床
平成26年9月	144床	43床	-	4床	191床
平成28年4月	105床	43床	39床	4床	191床
平成28年9月	98床	43床	46床	4床	191床
	111床削減	43床転換	46床転換	変更無し	22床削減

平成30年度急性期一般病床等における患者区分の実績 1レセプト当たりで算出

滝宮総合病院

名称	許可病床数	高度急性期 3,000点以上 (A)	急性期 600点以上 (B)	(A) + (B)	占有率	回復期リハ 175点以上 (C)	慢性期 175点未満 (D)	(C) + (D)	占有率	計	稼働率
急性期 一般	3階西病棟	13.7人	20.3人	34.0人	65.4%	5.9人	0.9人	6.8人	13.1%	40.8人	78.5%
	4階東病棟	46床	7.9人	26.7人	34.6人	75.2%	1.1人	0.0人	2.4%	35.7人	77.6%
	小計	98床	21.6人	47.0人	68.6人	70.0%	7.0人	0.9人	7.9人	8.1%	76.5人
回復期 リハ	3階東病棟	43床	0.0人	0.0人	0.0%	40.5人	0.0人	40.5人	94.2%	40.5人	94.2%
地域包括 ケア	4階西病棟	46床	0.0人	0.0人	0.0%	38.8人	0.0人	38.8人	84.3%	38.8人	84.3%
	合計	187床	21.6人	47.0人	68.6人	36.7%	86.3人	0.9人	87.2人	46.6%	155.8人

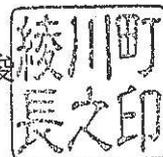
令和2年1月24日

西部構想区域

地域医療構想調整会議

久米川 啓 議長 殿

綾川町長 前田 武俊



意見書

香川県中讃地区の2次保健医療圏には、急性期医療を担う病院は多くありますが、県南中部に立地する総合病院は、綾川町の滝宮総合病院が唯一であり、今後、当地区で増加が見込まれる70歳以上の高齢者の急性期疾患に対応する病床や急性期以降のリハビリ等が必要な住民のための病床は全体的に不足していると思われま

す。そうした中、滝宮総合病院は2013年に再開発を終え、新病院となり、一般急性期病床を回復期病床や地域包括病床にいち早く転換し、国が推進する地域包括ケアシステムへの貢献により、地域医療を支える重要な役割を担っています。

当地域において、一般急性期病床は滝宮総合病院の98床が全てであり、年間1,000件を超える救急車の受け入れに加えて、施設などで急変した患者を受け入れるための病床機能等を考慮すると、これ以上の削減は考えられません。

今後、増加する高齢者の多くが、急変時に30分以上かけて他の医療機関を受診することや入院治療を行うことを、患者やその家族の声を聞く限り、望まないとする意見が大半を占めております。

12月定例議会の本会議一般質問においても、厚生労働省が公表した「分析結果」に沿って医療機関の再編統合を進めれば、町民が必要とする医療の提供に深刻な影響を及ぼすことや、十分な実態把握をしないまま公表された「分析結果」に基づき検討を求めること自体が不適切であり、白紙撤回を求めるよう要望が出されたところであります。

また、再編統合が必要とされた病院においては、医療従事者(医師・看護師等)の確保に大きな影響が出ているとする、いわゆる風評被害も耳に入ってきており、綾川町としてもこのようなことが原因で他の地域へ貴重な医療資源が流出することに対して危機感を高めています。

地域医療構想調整会議においては、地域の実情を十分踏まえながら、住み慣れた地域で住民が安心して生活を続けられる医療提供体制の確保に向けて、慎重かつ、適切な協議を宜しくお願いいたします。